

令和5年度 中央区立日本橋幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員：今江嘉利、多賀谷里沙、野崎 剛、小森優子、村上勇人、藤木牧子、東 純生、
竹田津敬子、岩上佳夫 ※敬称略

報告書作成者：神山安弘

評価時期 令和6年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「心身ともに健康で、自分らしさを素直に表現できる、『げんきな こ』を育む。」について

評価指標1「一人一人の幼児が、走る、踊る、跳ぶ等、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえたか。」は、保護者の評価が「十分達成している」「達成している」が昨年度の89%から100%に上昇し高い評価を得ている。評価指標2「身の回りの自然物や栽培物に興味、関心をもって見る、触れる等していたか。」の評価は98%の評価である。また「全体の評価」6「体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験」は、100%の評価を得ており重点目標の達成に向けた教育活動の評価である。重点目標1の「げんきな こ」は幼稚園教育の根幹である。教育目標の達成を目指す教育活動が幼児の実態を踏まえ意図的・計画的・組織的に実践され、幼児の姿として保護者に理解された成果である。

重点目標2「優しく思いやりがあり、友達と仲良く遊びに取り組む、『やさしい こ』を育む。」について

評価指標1「生活に必要な言葉を、自分から言えるようになったか。」は、保護者の95%の高い評価を得ている。評価指標の設問が「年少児は、『意思表示を動きで示す』」「年中児は、『動きや言葉で表す』」「年長児は、『言葉で表せる』」と、幼児の発達段階に応じた「幼児の姿」で表現している。保護者を考慮した設問であり評価できる内容である。評価指標2「自分の住んでいる地域や身近な人に、親しみの気持ちをもっているか。」は、保護者の98%が「十分達成している」「達成している」の高い評価を得ている。「全体の評価」8「幼児同士や身近な人とのかかわり」、9「思いやりや心や命を大切に作る心」、17「地域との交流活動」は、100%の高い評価である。地域の商店との交流や地域の人材から「日本橋音頭」を継承する活動など「日本橋」の地域の特色を生かした教育活動を展開し保護者に評価された成果である。

重点目標3「自分で考えて行動し、最後までやりぬく努力をする、『かんがえる こ』を育む。」について

評価指標1「動きや言葉、歌、リズム、制作、描画、演じて遊ぶ等を通して、自分のイメージを表現していたか。」は、保護者の98%、評価指標2「身の回りの自然に興味・関心をもって、見たり触れたりする中での面白さを感じて遊んでいたか。」は、保護者の100%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。設問で「身の回りの自然」を砂遊びや色水遊び、シャボン玉遊び等と、遊びの内容を具体的に示している。これは園が年間指導計画に「感性」、「思考力の芽生え」、「学びに向かう力」など幼児に育む力を分析・検討し明確にして位置付けているからである。また、年長児の活動の評価について発達段階を考慮し文言にしていることも評価できる。ただ、評価指標1の「自分のイメージを表現していたか」の設問は、保護者、教員が評価する際に幼児の「自分のイメージ」の捉え方や「表現していたか」を評価することが難しく文言の検討を期待する。

2 今後の改善に向けた意見

・保護者・教員アンケートにおいて全ての評価指標で高い評価を得ている。高い評価の要因についてアンケート結果をもとに分析・考察し、今後も継続して教育活動の質の向上を図ることを期待する。

3 その他の意見

・「全体の評価」1「幼稚園に行くことを楽しみにしている」、3「教職員は幼児をよく理解している」、4「教職員は協力して、あたたかく指導している」、5「明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている」などは100%の高い評価である。園の経営方針や教育活動に対する信頼と実績に対する成果である。

・保護者アンケートの回数率は85%である。アンケートを提出しない保護者の実態を把握するとともに、今後も園が保護者と連携し、充実した教育活動を推進することを期待する。